

クリ (果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
胴枯病		<ol style="list-style-type: none"> 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。 草生栽培として下草管理を励行する。 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。 枯死枝・病患部は削り取り、傷口、切り口にはトップジンMペーストまたはベフラン塗布剤3を塗り保護する。 	<p>一般に若木では接木部を中心に発病する。</p>
実炭疽病		<ol style="list-style-type: none"> 発生の少ない品種を栽培する。 密植をさけ、整枝、間伐を励行する。 果実害虫を防除する。 	<p>丹沢、伊吹、筑波などにでやすい。 成木にでやすく、幼木に少ない。 雨の多い年にでやすい。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
	7月中旬～8月下旬	<p>・次の薬剤のいずれかを2～3回、イガに十分にかかるように散布する。</p> <p>ベルコートフロアブル 1000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍</p>	
疫病		<ol style="list-style-type: none"> 発生地では草生栽培とする。 密植、樹の軟弱徒長とならないよう栽培管理につとめる。 せん孔性害虫を防除する。 	<p>一般に発病部位は地表から1m内外の高さまでの幹、主枝の部分に限られる。</p>
黒色実腐病		<ol style="list-style-type: none"> 胴枯病、実炭疽病に準じた耕種的防除を行う。 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。 草生栽培として下草管理を励行する。 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。 	<p>東京都では近年発生が多い。 高温の年に発生しやすい傾向がある。</p>
クリイガ アブラムシ(クリキナコムシ)	6月中旬～下旬	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する(イガの内部まで十分散布する)。</p> <p>アドマイヤー水和剤 1000倍 マブリック水和剤20 2000倍</p>	<p>岸根ほか中期晩生種に多くなる傾向がある。</p>
モモノゴ マダラノ メイガ	6月下旬～7月中旬・8月上旬～9月中旬(裂果前)	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックスフロアブル 4000倍</p>	<p>森早生は7月下旬、8月上旬、中旬、銀寄は8月中旬、下旬、9月上旬それぞれ散布する。</p>

クリ (果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
キクイムシ類	3～5月 (産卵初期)	・ 次の薬剤を地際から150cmまで塗布または散布する。 ガットサイドS (乳) (塗布) 原液～1.5倍 (散布) 1.5倍	卵のふ化始めを中心に樹幹の産卵部位に薬液を噴霧する。
カミキリムシ類	裂果前	1. 被害部を見つけ捕殺する。 2. 次の薬剤を樹幹部に十分に散布する。 トラサイドA乳剤# 100～200倍	# 裂果前 (但し収穫14日前まで) 薬剤が葉にかかると薬害を起こすことがあるので注意する。
クリシギゾウムシ	9月下旬～10月 (裂果前)	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1500～3000倍 アディオオン乳剤 2000倍	
クリタマバチ	発芽期 (4月中旬) または成虫発生期 (6月中旬～下旬)	1. 耐虫性品種を選ぶ。 2. 低樹高剪定栽培を励行する。 ・ 発生の多い時は、次のいずれかの薬剤を散布する。 1. 芽がゆるみ、先端が白く5mm程度のびた時期 (発芽直前)。 トラサイドA乳剤△ 200倍 2. 成虫の発生初期、一般的には品種「筑波」の雄花満開期 アディオオン乳剤# 1000～2000倍 マブリック水和剤20 2000倍	耐虫性品種の中では石鎚、有磨、銀寄、出雲、岸根などは強い。 △トラサイドA乳剤による防除は低樹高剪定栽培でないと、散布ムラから効果が劣る場合が多い。 # 羽化脱出期に散布 (但し収穫14日前まで)
その他の病害虫		クスサン、ハマキムシ類、キスジキノカワガ、トドマツハダニ、クリフシダニ	